

「食に関する指導」を通じて 家庭・地域とつながる西小っ子

熊取町立西小学校



Why

なぜ取組みを進める必要があったのか（実態・背景）

- 児童の「食」に対する意識は低く、偏食や野菜嫌いが見られる。
- 学校で「食に関する指導」を行ってきたが、独立した取組みになりがちであった。
- 「食に関する指導」を効果的に進めるための研究が必要であった。

How

どのように取組みを進めたか（取組みの概要）

- アンケートにより児童の実態を把握したり、実践の検証を行い、学校全体で課題と実践を共有する。
- 発達段階に応じた系統的な指導計画を立案する。
- 各学年において単元配列表を用いて教科横断的な視点でつながりを意識し、授業計画を立てる。
- 地域の環境や人的資源を活用し、体験学習等を通して児童の学びを深める。

Change

どのように変容したか（学校・保護者・地域等）

- 児童の「食」に対する意識が高まり、「食」を通して人とつながったり、今までの学びや日常生活等と結びつけて考えたりする姿が見られるようになった。
- 教職員は「食に関する指導」と各教科とのつながりを意識して授業改善に取り組むようになった。
- 教職員同士が「食に関する指導」を通してつながり、学校全体で成果や課題を共有し、改善につなげられるようになった。
- 各教科においても、系統性や教科横断的な視点をもって指導計画を作成するようになった。



1. 全教職員による共通理解と協働

- (1) カリキュラム・マネジメントの基盤としての教職員の共通理解
- (2) カリマネ表(単元配列表)の作成と活用

2. 具体的な授業実践

- (1) 教科横断的な視点でのつながりを意識した実践
- (2) 地域の環境や人的資源を活用した体験学習の実践
- (3) 系統性や既習事項とのつながりを意識した授業実践
- (4) 教科指導への広がり

3. 成果と今後について

- (1) 児童の変容
- (2) 教職員の変容
- (3) 成果・課題と今後に向けて

1. 全教職員による共通理解と協働

(1) カリキュラム・マネジメントの基盤としての教職員の共通理解

本校では、従来より地域の資源を活用し、さまざまな食に関する学習や体験的学習等に取り組んできた。しかしながら、それぞれの取組みが単発になりがちであった。また、全国学力学習状況調査における朝食摂取状況では平均を下回るなど、児童の食に対する意識の低さが見られる状況であった。そこで、「食に関する教育において、教科横断的な視点に立ち、全体計画と関連づけながら効果的な指導を行う」ことをテーマに研究を行うことにした。

「食」に関する学習は、家庭科の内容の中で取り上げられるが、「食に関する指導」の目標については、家庭科の教育課程の中だけで達成できるものではなく、学校の教育活動全体を通して計画的、継続的に取り組み、達成していくことが期待されている。また、取組みの内容に関しては、家庭や地域との連携が必要になる場合も多くなる。それらの特性を踏まえ効果的に指導を行うには学校全体、各学年の年間指導計画を俯瞰的に捉え、いつ、どの教科・領域で、どんな「食に関する指導」を行うかを検討する必要があった。

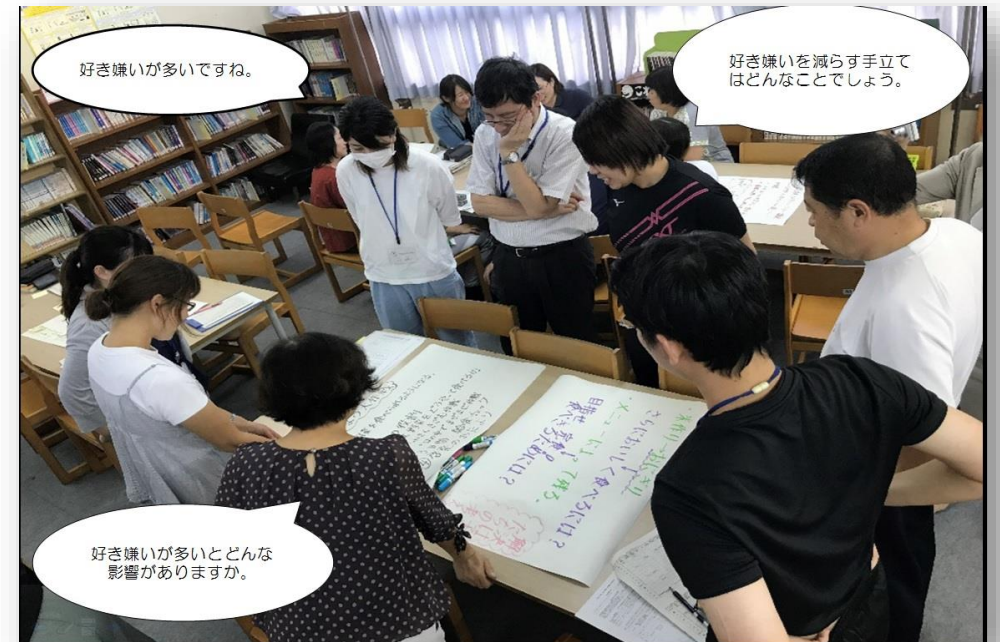
カリキュラム・マネジメントの実現には、学校の教育活動の現状に対する問題意識を全教職員が共有したうえでの「協働」が不可欠である。そこで、「カリマネ表（単元配列表）」を作成し、これまでの「食に関する指導」の実践について各教科・領域とのつながりを捉えることにした。

研究開始当初は、教職員がどのような視点で、どのように研究を進めていくかをイメージできない状況であったため、身近な課題に着目し取組みを進めた。

大阪教育大学の田村先生をお招きした研修会において、児童の実態やアンケート調査の結果をもとにして、KJ法を用いて課題を整理し、「児童の偏食、特に野菜ぎらいの児童が多い」ことを取り上げ、各学年の取組み目標を検討する機会をもった。その際、以下の4つのポイントを踏まえて、各学年の取組み目標を策定した。

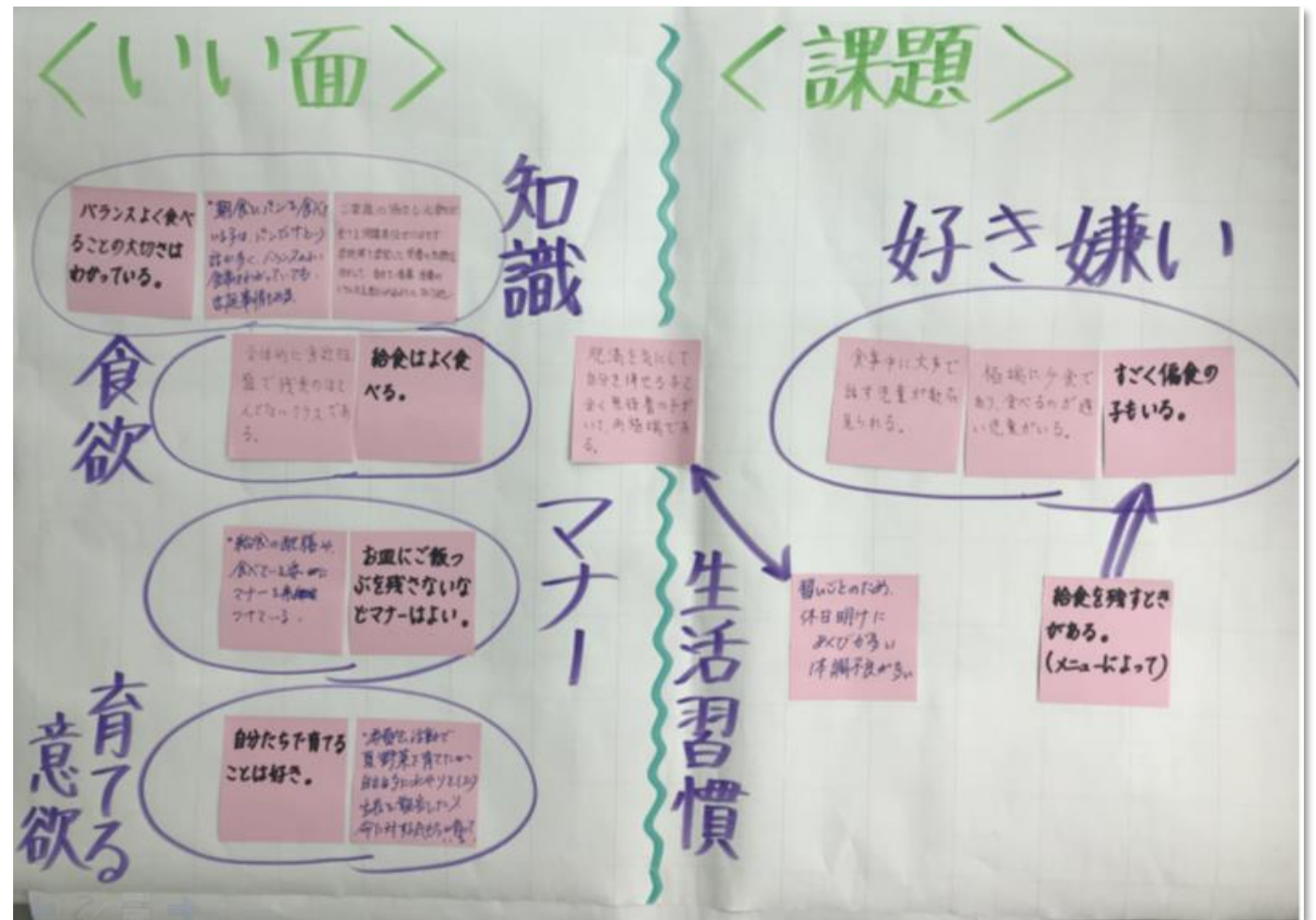
【ポイント】

- ①各学年の取組みを理解し、発達段階に応じた系統的な指導計画にすること
- ②バランスよく食べること、特に野菜を見たり、育てたりして、野菜を身近に感じられるように取り組むこと
- ③周りに田畑が多くあり、作物を育てている地域の方々がたくさんおられることを生かして、作物を育てる喜びや工夫、苦労などを聞かせていただくことにより、食物の大切さを理解させ感謝の気持ちを育むこと
- ④食育は家庭と切っても切れない関係にあり、生活環境や価値観については、家庭によりさまざまである。したがって、食育を進めていく上で、家庭との協力は不可欠であること



【表 1】「野菜ぎらい」を切り口とした各学年の取り組み目標

学年	目 標
1年	野菜の名前を覚えて野菜に親しませる
2年	自分たちで育てた野菜を工夫して調理し、野菜嫌いの子どもの数を減らす
3年	畑で働く方の工夫や苦勞を知り、生産にかかわる人々への感謝の気持ちを育てる
4年	食事のマナーアップを図る（食事マナーと学力の関係性を意識して）
5年	交流（保護者、地域等）を進め、感謝の気持ちを深め、よりおいしく食事をする
6年	食事のマナーの向上と楽しさを味わい、修学旅行で仲間との親交を深める



第2回目の研修会では、武庫川女子大学の藤本勇二先生をお招きし、第1回研修会で検討した「食育は育てる、作る、食べる」という切り口からだけではなく、環境問題、食品ロスの問題等からのアプローチもあることを再確認した。食に関わるさまざまな課題を明らかにすることにより、「食の安全」や「命の尊さ」、「健康なからだづくり」への広がりなど、他教科や領域との関連性や発達段階（学年）に応じた取組みのあり方が、より鮮明になった。

実際に令和2年度の取組みについては4年生で、食品ロスの問題を自分たちにできる環境問題と捉え、給食の残食を減らす取組みが行われ、委員会活動ではアルミ缶や古紙を集める取組みの意識の向上につながっていった。

このように、カリキュラム・マネジメントを意識した取組みを進めることを通して、日常的に教科横断的な実践を行っていたことに気づき、教職員が共通理解をし、組織的、計画的に進めることが、教育の質の向上につながることが実感できた。



(2) カリマネ表(単元配列表)の作成と活用

これらの取組みを経て、「カリマネ表」を作成した。作成するにあたっては、以下の点について配慮した。

【カリマネ表作成のポイント】

①「カリマネ表」作成の目的は、学校教育目標を実現することにある。教職員一人ひとりが、今までの実践してきた取組みをベースとしつつも、その取組みの意義や目的、さらには実施時期を意識することによって、内容を精査したり、学年の実態にあった内容に変えたりする。

②それぞれの取組み等を教科横断的な視点でつなげ、「見える化」する。

③全学年の取組みを縦のつながりで意識する。ブロックを組み立てるように、学年の枠を越え、6年間を通して系統立てながら考える。

令和2年度 熊取町立西小学校 5年 カリマネ表(食育に係る教科・領域・単元について)
 学校教育目標 自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成～一人ひとりが輝く学校づくりを通して～ めざす子ども像 ・すすんでる子 ・なかよくする子 ・元気な子

学校行事	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式
全学年目標	学校のめざす姿をもちあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ	思いあそぶ
食育	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ	食育のめざす姿をもちあそぶ
理科	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ	理科のめざす姿をもちあそぶ
国語	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ	国語のめざす姿をもちあそぶ
社会	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ	社会のめざす姿をもちあそぶ
音楽	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ	音楽のめざす姿をもちあそぶ
体育	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ	体育のめざす姿をもちあそぶ
総合	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ	総合のめざす姿をもちあそぶ
特別活動	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ	特別活動のめざす姿をもちあそぶ

食育でつなげるとこうなるけど
 研究教科(理科)ではどうなる？

職員全員で取り組むと職員同士の
 コミュニケーションが図れる。



2. 具体的な授業実践

(1) 教科横断的な視点でのつながりを意識した実践

P.5の【表1】の目標を踏まえ、「カリマネ表」を活用して各学年で取組みを実践した。主な実践例は【表2】の通りである。

【表2】各学年の主な取組み

学年	取組み
1年生	栄養職員との連携による給食指導
2年生	自分たちで育てた野菜を工夫して調理、活用した取組み
3年生	お店や畑で働く方の工夫や苦勞を学び、感謝の気持ちを育てる取組み
4年生	食品ロスについて学び、自分たちができることにつなげる取組み
5年生	体験、交流（保護者、地域等）を通して、感謝の気持ちを深める取組み
6年生	調理実習や給食等を通じて食事のマナーを向上させる取組み

- 1年生：特別活動の時間を活用して、給食開始までに実際に使うお盆やお皿を使って配膳の事前指導や、生活科の時間や給食の時間を活用し、野菜のはたらきの指導を実施した。
- 3年生：社会科の学習でお店や畑で働く人の工夫や苦勞を学び、社会見学ではスーパーマーケットの見学や畑で働く人の話を聞くなど実施した。
- 4年生：社会科の学習で「住みよいくらし」の単元の「ごみのしまつと活用」について学習し、熊取町住民部産業振興課の協力を得て、熊取町で推進されている4Rの取組みの中のリデュース（ごみを減らす）について食品ロスのことを学習した。
- 6年生：家庭科の調理実習を通して、家庭への感謝の気持ちを育み、給食の時間や修学旅行での会食などでは、食事のマナーの向上に取り組んだ。

(2) 地域の環境や人的資源を活用した体験学習の実践

(リースを作って) さつまいものつるがきれいなかざりになってうれしい!

【2年生】

①熊取町住民部産業振興課の協力のもと、生活科でさつまいもの苗を植え、秋の収穫に備える。水やりは子どもたちが行う。

②図工の時間に、さつまいものつるを使ったリース作りを行う。また、さつまいもを収穫し、さつまいもパーティーとして蒸しパン作りを行う(特別活動)。食育便りにレシピも掲載した。

③さつまいもを含め野菜を食べるとどんないいことがあるかを考える授業を行う。



苦手な野菜はあるけど、野菜を食べると元気になると思った。

明日から給食を残さずに食べようと思った。

(蒸しパン作りは) 簡単で、家で作ろうと思った。

2年生の保護者様
令和元年12月17日
熊取町立西小学校
栄養士 廣岡沙紀

食育だより

「やさいとなかよし 大きくせん!」


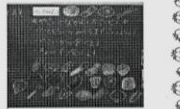
12月10日に野菜について学習しました。各学年では野菜について重点的に指導しています。学習をするにあたって、2年生に野菜についてのアンケートを実施しました。

＜ 2年生 野菜アンケートの結果 ＞ 対象人数 77人

① 前日の野菜を漬したり、凍らしたりすることがあります。	39人
② うんちが毎日出ます。	42人
③ にごで野菜があります。	46人

④ どの野菜が、なぜですか?
トマト・オナス・カリフラワー・パプリカ・さといも・ゴーヤ・ピーマン・きゅうり・大根・ホウレンソウ・白菜・きのこ(しいたけ、なめこ、マッシュルーム)・セロリ・オクラ・人参・玉ねぎ・ブロッコリー・グリーンピース・コーン・レンコンなど

学習の中で、子どもたちに「この結果を見てどのように感じましたか?」と聞いたところ、「野菜を食べないと元気にならない」「すぐ疲れてしまう」などの意見がでました。また、野菜の食さについて考え、苦手な野菜をどのような工夫で食べるか、ひとりのとりが自分ができる「大きくせん」を考えました。
お子さまがどのような作業をたてたのでしょうか?一度、聞いてみてください。


＜ 学習の様子 ＞   ＜ 大きくせんの例 ＞

ちょっと話にくいけど、うんちの話
今回の学習には、排便の話があります。排便の話は、子どもたちにとっても、恥ずかしくて口に出すににくい話題だと思います。そこで、学校の図書室にある絵本を使用して、うんちについて話しました。
本のなかには、野菜をしっかり食べるといいうんちが出る、という説明があります。・・・子どもたちは面白いながらも、しっかりと聞いてくれました。排便の学習をする中で、排便の大切さやいっしょに学習してもらえたと感じています。

＜ 絵本のなかでのうんちの分類 ＞

うんちの分類	図	形状と特徴
うんぴ		下痢便のこと。食べすぎによる消化不良や、冷たいものをとりすぎた時にみえます。風邪やストレスでもみえます。
うんによ		下痢ではないが、やわらかめの便。よくかまずに食べたり、消化不良の時に出ます。
うんち		理想的なうんちです。野菜を十分に食べるバランスのとれた食事や、規則正しい生活習慣による健康な体から出ます。色はきれいな茶色です。
うんご		野菜が不足したときや、または、便秘気味の便。色は黒っぽい。運動不足や水分不足、うんちがまんしても便閉になりやすいです。野菜など食物せんいの多い食べ物をたくさんとって、規則正しい生活をしましょう。

「やさいバクバクカード」のとりかみをお楽しみください
12月11日～13日の3日間、給食の野菜を好きなだけ食べる取り組みを行いました。目標を達成できたら、カードにシールを貼ることが出来ます。
授業で考えた作業をもちこ、シールの準備を目標として頑張っている子がたくさんいました。
考えた作業をお家ででも実践していただけるよう、食卓にも野菜を登場させたいただけたらと思います。



【5年生】

①社会科、総合的な学習の時間を活用し、農業体験を実施する。学校付近の農家の方の協力を得て、田植えの体験を行う。

②農家の方から仕事について学び、機械がない時代の苦労話等も聞かせていただく。

③稲刈り体験を行う。農家の方の苦労や工夫に気づき、お米を大切に食べようという意識が高まった。また、感謝の気持ちを育むこともできた。

④総合的な学習の時間に「もっとみんながお米を食べるための作戦を立てよう」というめあてを持って班ごとに作戦を立て、土曜参観で発表した。その内容を新聞にまとめて共有した。

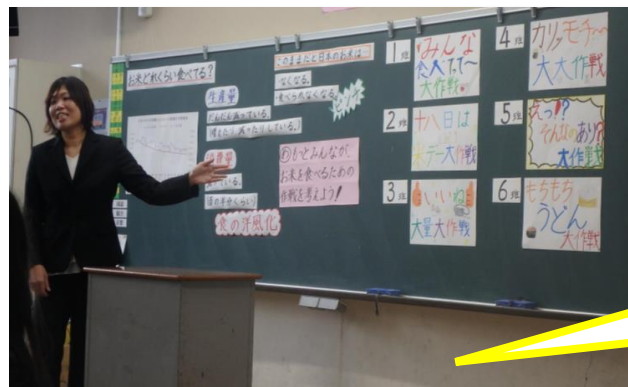
⑤支援学級（ひまわり学級）で育てた野菜と、5年生全体で育てたお米を使って、家庭科の時間におにぎりと豚汁を作って交流会を行った。



今は機械で田植えも稲刈りもしているが、もっと昔は家族全員で手作業でしていたことを聞いてびっくりした。



外国のお米のことも知って、日本のお米のおいしさを感じました。



(3) 系統性や既習事項とのつながりを意識した授業実践

小学5年生の家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」（東京書籍）の単元で、5大栄養素の学習の公開授業を実施した。

【単元の目標】

食事の役割や栄養について理解するとともに、健康で安全な食生活について考え、課題をもって、日本の伝統的な日常食であるご飯とみそ汁に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、自らの食生活をよいものにするための実践的な態度を養うこと。

【他教科・領域、既習事項等とのつながり】

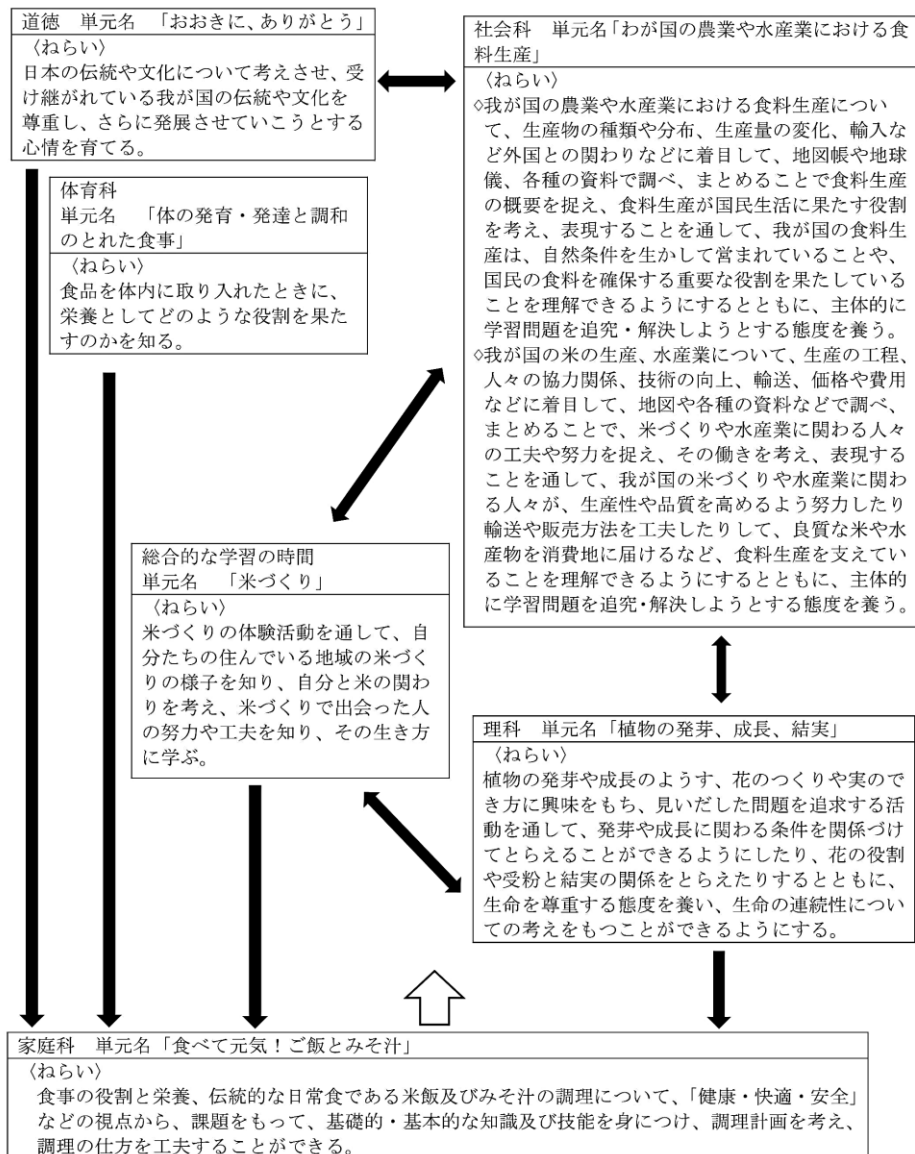
- ・「食事の役割」：第4学年 体育「体の発育・発達と調和のとれた食事」
- ・「栄養」：第5学年 理科「植物の発芽、成長、結実」
- ・「伝統的な日常食」：道徳「伝統文化の尊重」
- ・「日常食であるご飯とみそ汁」：第5学年 社会「わが国の農業や水産業における食料生産」
第5学年 総合的な学習の時間「米づくり」
- ・「自らの食生活をよいものにするための実践的な態度」：道徳「節度・節制」

【自分の生活・家庭や人・地域とのつながり】

- ・自分の生活は家族との協力や、地域の人々との関わりの中で成り立っていること、家庭生活は自分と家族との関係だけでなく、地域の人々と関わることでより豊かになることを理解した上で、より良い生活を工夫して積極的に取り組むことができるようにする。
- ・食生活を家庭生活の中で総合的に捉えるという家庭科の特質を生かし、家庭や地域との連携を図りながら健康で安全な食生活を実践するための基礎が培われるよう配慮するとともに、必要に応じて、家庭科専科や給食主任、地域の人々の協力を得るなど、食育の充実を図る。



「つながり」相関図



本單元における「つながり」相関図

【本単元の実施に至るまでの「つながり」について】

カリマネ表（単元配列表）を作成する以前は、1時間の授業が独立したものになりがちであった。しかし、年間指導計画を俯瞰的に捉え、さらに学年の教員で「食に関する指導」に係る単元等を線でつなぐ（7ページ参照）ことによって、年間を通して教科横断的な視点をもって指導に臨むことができた。実際の授業では、「〇〇で学習した△△と関係している」といった声かけや「〇〇で学習したことを思い出してみよう」といった指示や声かけが自然とできるようになっている。

また、子どもたちからも「〇〇で学習したことと似てる」や「△△とつながってる」、さらには「この学習はどんなことにつながるんやろ」といった声が聞こえるようになった。

本単元の学習については、4年生時の保健の学習で「食品を体内に取り入れた時のはたらき」や理科の「植物の発芽、成長、結実」の単元で植物の種子の中の養分に関する学習で扱うでんぷんとの関連を図った。また社会科の「わが国の農業や水産業における食糧生産」や総合的な学習の時間の「米づくり」、道徳の日本文化を大切にしようとする態度や生活を楽しもうとする態度を育てる学習とも関連を考えて学習を進めた。



(4) 教科指導への広がり

本校の研究教科（生活科、理科）については、つながりを意識した学習指導案を作成している。

小学5年生の理科「ふりこのきまり」の単元で、大阪体育大学の神山先生を講師としてお招きし、「もにつながり、ひびき合う学習をめざして～始めと終わりのつながりをデザインする～」をテーマに授業研究を行った。「つながり」を生かした学習のめあて、「つながり」の相関図は次のとおりである。

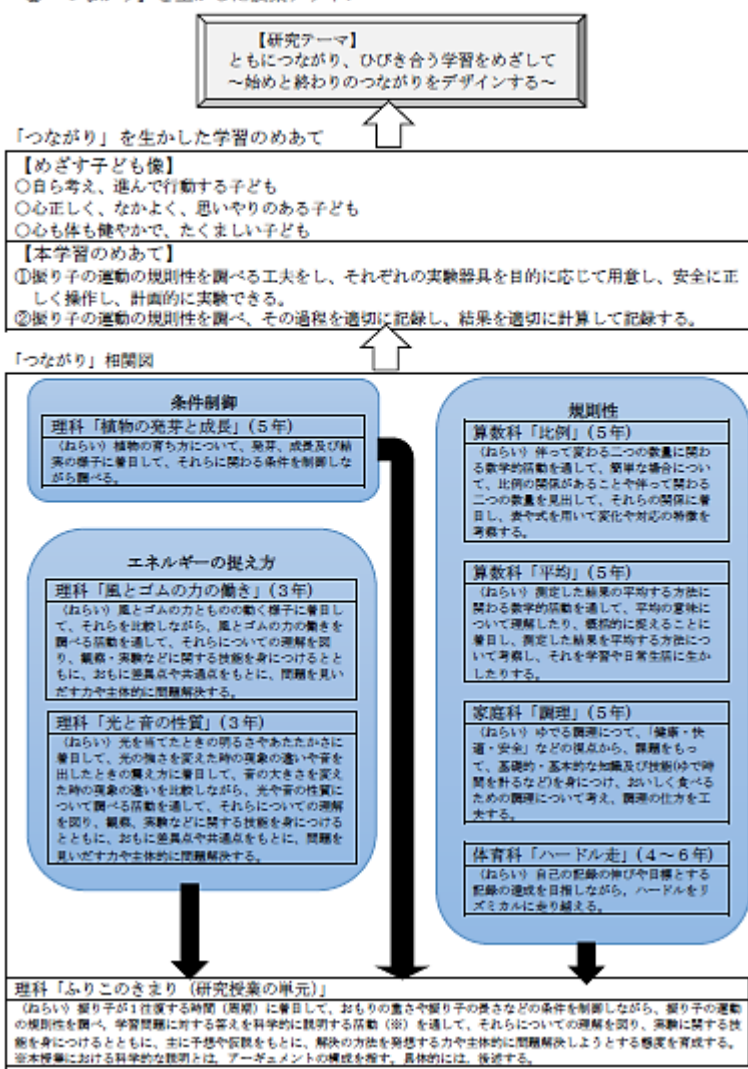
また、既習学習及び他教科とのつながりは次ページのとおりである。



7. 指導観

(1) 研究テーマとの関わり

① 「つながり」を生かした授業デザイン



② 「つながり」を生かすための手だて

【既習事項とのつながり】

- ・「植物の発芽と成長」の学習を通して、条件を制御しながら調べる。このことから、本単元では、振り子の実験の条件(振れ幅・おもりの重さ・振り子の長さ)を適切に制御しながら調べるようにしていきたい。
- ・「風とゴムの力の働き」「光と音の性質」の学習を通して、主体的、計画的に操作や制御を通して働きかけ、追究することにより、対象の性質や働き、規則性などについての考えを構築してきた。このことから、本単元では、おもりの重さや振り子の長さなどの条件を制御しながら、振り子の運動の規則性を調べていきたい。

【他教科とのつながり】

- ・算数科「平均」では、平均の意味について理解したり、概率的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察したりする活動を行った。このことから、本単元では、振り子の1往復する時間の平均時間を適切に計算できるようにしていきたい。
- ・算数「比例」では、伴って変わる二つの数量を見出して、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する活動を行った。このことから、本単元では、振り子が1往復する時間と振れ幅・おもりの重さ・振り子の長さの2つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察していきたい。
- ・家庭科「調理」では、課題をもって、基礎的・基本的な知識及び技能(ゆで時間を計るなど)を身につける学習を行った。このことから、本単元では、振り子が1往復する時間を適切に計れるようにしていきたい。
- ・体育科「ハードル走」では、ハードルをリズムカールに走り越える活動を行った。このことから、本単元では、一定周期で振れる振り子の動きに関連させて学ばせたい。

【研究テーマとのつながり】

- ・校内研究では、研究テーマを「もにつながり、ひびき合う学習をめざして～始めと終わりのつながりをデザインする～」と設定している。言語活動を充実させ、既習事項とつなげ、「またやりたい」「もっと知りたい」と思える、次の学びにつながる授業になるように工夫することで子どもたちがわかる・できる喜びを味わうような授業をめざしている。そこで、論理的に思考し、自分の思い、考えを表現する力を育てることで言語活動の充実を図ることができるのではないかと考えアーギュメントの理論を用いた活動内容にした。

10. 本単元の学習の関連と発展 (単元の系統について)

校種	学年	エネルギー	
		エネルギーの捉え方	
小学校	第3学年	<p>風とゴムの力の働き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風の力の働き ・ゴムの力の働き 	<p>光と音の性質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の反射・透光 ・光の当て方と明るさや暖かさ ・音の伝わり方と大小
	第4学年		
	第5学年	<p>振り子の運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り子の運動 	

【既習事項とのつながり】

- ・「植物の発芽と成長」の学習を通して、日当たりなどの条件を制御しながら調べた。このことから、本単元では、振り子の実験の条件（振れ幅・おもりの重さ・振り子の長さ）を適切に制御しながら調べられるようにしていく。
- ・「風とゴムの力の働き」「光と音の性質」の学習では、実験において主体的、計画的に機器を操作したり、条件を制御したりするなどして追究することにより、対象の性質や働き、規則性などについての考えを構築してきた。このことから、本単元では、おもりの重さや振り子の長さなどの条件を制御しながら、振り子の運動の規則性を調べていく。

【他教科とのつながり】

- ・算数科「平均」では、平均の意味について理解したり、概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察したりする活動を行った。本単元で、振り子の一往復する時間の平均時間を適切に計算する際に役立った。
- ・算数「比例」では、伴って関わる二つの数量を見出して、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する活動を行った。本単元では、振り子が一往復する時間と振れ幅・おもりの重さ・振り子の長さの2つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察した。

本研究授業を通して、児童が「またやりたい」「もっと知りたい」と思える授業を行うにはどうすればよいかを理解できた。また、「次につながる授業づくり」「これまでの学びとつながる授業づくり」の大切さを実感することができた。

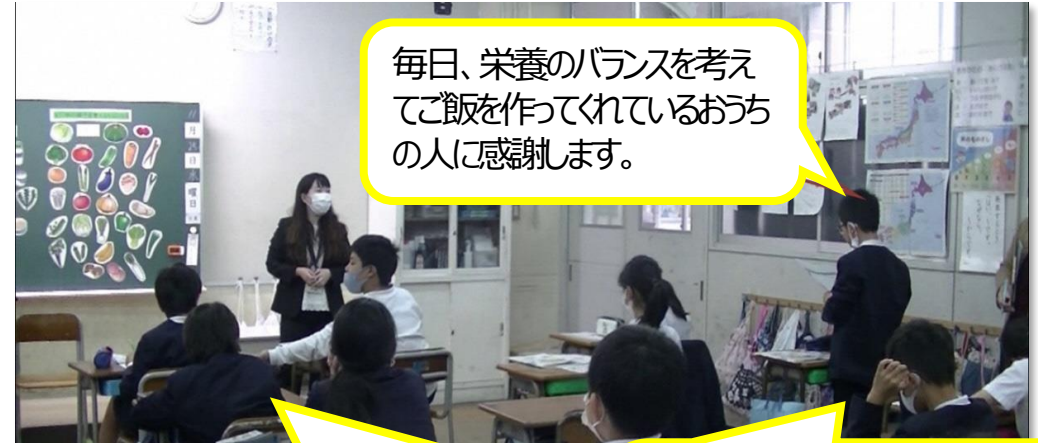
振り子が10往復する時間を計るんだね。

算数で学習した平均を使って、1往復する時間を求めるんだね。

3. 成果と今後について

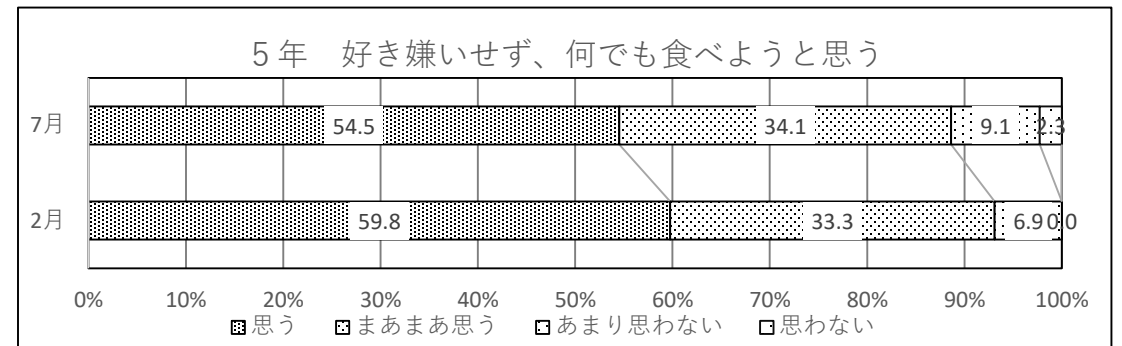
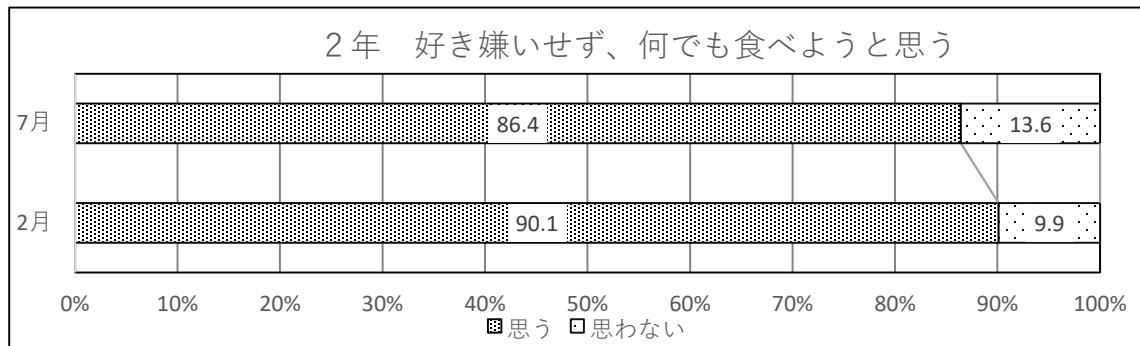
(1) 児童の変容

- ・児童の「食」に対する意識が高まり、「食」を通して人とつながったり、今までの学びや日常生活等と結びつけて考えたりする姿が見られるようになった。
- ・アンケート結果「好き嫌いせず、何でも食べようと思う」について6学年中5学年の肯定的回答の割合が向上した。
- ・地域の方とのつながりができ、登下校中のあいさつが増えた。
- ・自分の食生活をふり返り、家の人への感謝の気持ちを持ったり、給食の献立を五大栄養素に分類しようとしていたりしている姿が見られた。(5年)



お弁当の時、毎日、ビタミンに赤、黄、緑色全てそろっていておうち人はすごいと思っています。また、五大栄養素もそろっています。これからも、五大栄養素をとってきたいです。

日常を振り返ってみると、無機質をあまり、体内に含んでいないことに気がつきました。なので、学習を通して、自ら無機質をとったり、ほかにも五大栄養素に関わる食材をできる限りバランスよく食べていきたいと改めて実感しました。



(2) 教職員の变容

全教職員でカリマネ表を作成し、教育計画を「見える化」したことで、教職員一人ひとりが他教科や他学年との「つながり」をさらに意識することができた。このように教職員が「つながり」を意識することで、学習指導においては、発達段階に応じた指導や他教科との関わりを念頭に入れた上で児童の学びが深まるような取組みを行えるようになったことが成果であると考えます。

- ・「食に関する指導」と各教科とのつながりを意識して授業改善に取り組むようになった。
- ・教員同士が「食に関する指導」を通してつながり、学校全体で成果や課題を共有し、改善につなげられるようになった。
- ・各教科においても、系統性や教科横断的な視点をもって指導計画を作成するようになった。
- ・教員同士がカリマネ表の作成や修正等を通じて積極的にコミュニケーションを図るようになり、教員同士のつながりが深くなった。

令和2年度 熊取町立西小学校 6年 カリマネ表（食育に係る教科・領域・単元について）
学校教育目標 自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成～一人ひとりが輝く学校

学校行事	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入学式 始業式 運動会	入学式 始業式 運動会	入学式 始業式 運動会	入学式 始業式 運動会	入学式 始業式 運動会	入学式 始業式 運動会	入学式 始業式 運動会
学級活動 児童会 委員会	学級活動 児童会 委員会	学級活動 児童会 委員会	学級活動 児童会 委員会	学級活動 児童会 委員会	学級活動 児童会 委員会	学級活動 児童会 委員会
国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語
算数	算数	算数	算数	算数	算数	算数
理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科
社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会
英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育
家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科
総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合
特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動
その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他

学年担任同士のコミュニケーションが増え、指導内容、方法の確認ができる。

各学期末に進捗状況を確認できる。

はじめて担任する学年でも見通しがもてる。

【教職員の感想】

その教科だけではなく、他の教科とのつながりを考えて指導することができると思う。カリマネ表を作ることで、今までよりも意識するようになった。今後は、教科のつながりなどを考えてより効果的な順番などを考えていければと思う。

学年の内容を食育でつないでみると今まで意識していなかったところの各教科・単元のつながりを知りました。子どもたちと学習する際、自分が意識していることで発問や声かけに生かせると思いました。

「カリマネ表 つながりが『見える化』作戦」を実行するために常に見えるようにしておく必要があると思います。もちろん表だけでなく、人的、物的な体制を明確にして。誰もがいつでも確認できるようにしたいです。

めざす子ども像が具体化して明確になるので、そのためにつけたい力とその力とそのつながりがわかりやすく、指導に生かせると感じた。



他教科とのつながりを意識した計画をする上で、実践例が示されていてわかりやすかった。授業、単元における始めと終わりのつながりや教科をこえたつながりを考えて授業を計画していきたい。課題（めあて）の確認やまとめの確認にも生かせるかと思います。

同じ学年内の内容で、何の学習と何の学習が関連しているかが整理はつきりされているのがすごくよい（関連図）。片方をしっかり指導していれば、もう片方が発展的課題解決的に考えることができるという利点もある。支援の方でも、自立活動の分野で社会的側面、理科的側面など、様々な視点を入れ考えていきたい。

(3) 成果・課題と今後に向けて

本調査研究事業を推進し、「食に関する指導」を通じてカリキュラム・マネジメントに取り組んできた。これまで課題であった、それぞれの取組みが独立したものになりがちであった面が、ジグソーパズルのように教科横断的な視点で取組みをつなげて考えられるようになってきたと評価できる。これは、各学年が単元配列表カリキュラム・マネジメントの視点をもって、「見える化」したことの成果であると考えられる。また、全学年のカリマネ表を縦のつながりで意識することによってブロックを組み立てるかのようにより学年を縦断した教科縦断的な視点で考えることができた。

また、本調査研究事業を推進し、改めて本校の課題を教職員全体で共有することによって、究極の目標は学校教育目標を実現することにあるという教職員一人ひとりの意識が高まった。これは、これまで各学年が実践してきた取組みを踏襲するものの、その取組みの意義や目的、さらには実施時期を意識することによって、内容を精査したり、学年の実態に沿った内容に変えたりすることができるようになったところから評価している。

今後は、すべての児童が「ものごとをつなげて考えることができた。」「仲間と協力して、課題を解決することができた。」と実感できるよう、学校の取組みのねらいが児童に届いているのかを継続的に見取る必要がある。

また、全教職員でカリマネ表を作成し、教育計画を「見える化」したことを今後も教職員全体で取り組んでいく。

大きな大根がとれたよ！
みんなに食べてもらいたいなあ。



葉っぱもついていて立派だね。
それに、安い！



お買い上げありがとうございます！
新聞にまくから少し待ってね。